

## 近世～現代 渡船のある風景～現存最古の兼吉渡し

---

尾道水道を南北に行き交う渡船のある風景は、尾道風情を醸す尾道らしい風景・情景である。往時は9つもの渡し（渡船航路）が尾道と向島東西を繋いでいたが、今日ではその半分の4航路が健在するのみとなった。

“渡し（船）”を歴史的な目線を見た時、最古の渡しとなるのが、土堂渡し場と向島の兼吉を繋ぐ、通称・「兼吉渡し」（本渡しともいった。旧・公営渡船、現・尾道渡船）である。正確な開設時期は不明ながら、文献史料（横山吉原家文書・文化四年「覚」など）によると、寛政～文化期（1789～1817）頃にかかれたという、江戸後期に遡る古い渡船である。

島の割庄屋・高田恒次郎が、「手漕船一艘に船頭を附して、無賃で渡海往来せしめた」（「備後向嶋岩子島史」）のが初期段階であったようだ。

有料化後は綿や麦といった農産物を代価とする時期も見られ、賃料一文銭の時代には、「一文渡し」の通称で親しまれた。

手漕ぎ船から発動機船への移行は、大正11年（1922）からである。

文政8年（1825）4月開設と、兼吉同様に江戸時代まで遡るものとして、浄土寺下と向東の西谷間を往く渡船、通称・「浄土寺渡し」（ドック渡しとも称した。玉里渡船）があったが、しまなみ全通・新尾道大橋開通（平成11・1999）に伴う尾道港内の渡船航路再編により、平成9年（1997）4月にその長い歴史にピリオドを打った。同じく航路再編を受けて平成13年（2001）12月には、向島町有井と新浜間を往来した「有井渡船」も姿を消した。



昭和28年頃の公営渡船（土本寿美氏蔵）

写真提供：尾道学研究会デジタル・アーカイブス

近代以降の開設で時代的に早いものは、山波と向東を結ぶ「桑田渡し」で、明治13年（1880）8月に営業許可が出されている。

現存はしないが、明治の中頃に開設された「鳥崎渡し」は、西御所から西富浜の「海物園」（塩田を営んだ天満屋富島家の茶園）跡付近への渡しであった。鳥崎は海物園周辺

の字名（地名）<sup>あざ</sup>に因る。利用客が少なく、昭和初期に廃航されるに至った。

鳥崎渡しを開いた福本光蔵によって開設されたのが、「福本渡船」である。土堂町、元・石崎棧橋（石崎汽船発着の棧橋。「航路今昔」の項参照）と東富浜白石間で、古くは白石南の小浦（四軒島北）へ通じていた為、「小浦渡し」とも、また「明神渡し」とも称された。

市役所西の薬師堂浜と向東の彦ノ上間の「岸本渡し」（彦ノ上渡し、後にしまなみフェリー。廃航）は、大正の中頃に始まった渡船で、向島における発動機船の最初であったという。

### 尾道-向島（東西）間渡船一覧（東から順に）

- ◎桑田渡し 山波町桑田-向東町肥浜
- ◎小肥浜渡し 向東町肥浜-尾崎（山波との境）廃航
- ◎東渡し（ドック渡し、玉里渡船） 尾崎浄土寺下-向東町西谷 廃航
- ◎岸本渡し（彦ノ上渡し） 薬師堂浜（丸上棧橋）-向東町彦ノ上 廃航
- ◎兼吉渡し（一文渡し、公営渡船、尾道渡船）土堂渡し場-向島町兼吉
- ◎小浦渡し（明神渡し、福本渡船）土堂-向島町白石
- ◎駅前渡船（向島運航）尾道駅前-向島町富浜
- ◎鳥崎渡し<sup>からすぎ</sup>（廿五番渡し）向島町西富浜-西御所 廃航
- ◎有井渡し 向島町有井-西御所 廃航



公営渡船風景 昭和37年12月9日

土本寿美氏撮影

写真提供：尾道学研究会デジタル・アーカイブス